令和5年度　城 東 中 学 校 総 括 評 価 表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
学習指導 情報を正しく読み取り、自分の思いや考えを豊かに表現する力を育む。	①主体的・対話的で深く学び合う生徒の育成を目指した授業改善を実施する。 ②学習習慣を確立し、自らの課題に主体的に取り組む生徒の育成を図る。 ③タブレット端末の有効な活用実践を図る。	評価指標 ①　各教科の授業内容がおおむね理解できている生徒が８０％以上である。 ②１日平均１時間以上家庭学習に取り組む生徒が９０％以上である。 学習規律を守る生徒が９５％以上である。 ③生徒１人１台持っているタブレット端末を授業や家庭学習で有効に活用する。	評価指標の達成度 ①授業の内容が理解できている生徒が７６％と目標値をやや下回った。教師は指導方法の研究や工夫を通して「わかる授業・学びたくなる授業」づくりを続けているが、今後もさらなる改善の余地がある。 ②１日平均１時間以上家庭学習に取り組む生徒が７１％と目標値を大幅に下回った。また、学習規律を守る生徒は　９０％と目標値をやや下回った。目標を持ち、努力を続ける生徒が多くいる一方で、学習規律を守り、自主的に学習に取り組むことの大切さを知りながら、実行に移せていない生徒がいるのも現状である。今一度、全職員で学習規律の徹底を図り、学力の向上につなげていきたい。 ③小学校からの積み重ねもあり、基本操作は全員がマスターできている。中学校でも学習の振り返りや創作活動、ドリル学習などに活用してきた。また、長期休みには端末を持ち帰らせ、調べ学習やドリル学習に活用するよう指導した。	総合評定 （評定） B （所見） 学習規律を守り、落ち着いて授業に取り組む生徒が多く、学習に対する意識や意欲は高いと感じる。一方、自分の考えを表現することに対しては苦手意識を持つ生徒も多いので、今後はペアやグループでの話し合い活動をこれまで以上に取り入れ、合意形成のできる生徒の育成をめざしたい。	・授業の理解は、小学校からの積み重ねだと思うので、８割近くの生徒が理解できているのは、すばらしいと思う。 ・生徒個々のレベルを、さらに上げるためにも、家庭学習をルーティン化できればより効果的に結果がでると思う。 ・授業の中で主体的に学ぶ体験（テーマや目標を決めて、情報収集し、仲間と協議することでプレゼン準備を進める等）の活動に取り組んでほしい。 ・自分の考えをプレゼンしていく力や違う考えを理解しようとする力をつける取組をしてほしい。 ・２年生の３学期に配付される問題集が、学習する際にとても役だった。 ・タブレットを自宅でも積極的に使用していくことで、家庭学習を自主的にすすめていくことが可能になると思う。	・「わかる授業・学びたくなる授業」をめざし、今後も教員間での情報交換や最新情報の入手に努めたい。また、今後も学習規律の徹底を図り、落ち着いた学習環境の構築に努める。 ・合意形成のできる生徒の育成をめざし、今後も生徒が思いや考えを表現したり、話し合いを通して他者理解を深めたりする場を設定していきたい。 ・生徒に学習計画をきちんと立てさせるとともに、必ず振り返りをさせ、自己の学びを調整させていきたい。また、学習活動に対するフィードバックを明確かつ迅速に行い、生徒の自己改善につなげられるようにしたい。
		活動計画 ①＜城東中学校学力向上実行プラン＞を策定し、各教科の到達目標について評価を実施する。 ②「学力向上のための生活改善１０ヶ条」「各教科の学び方」などの配付を通して、学力と生活習慣の関係、効果的な学習方法および学習規律を指導する。 ③タブレット端末の有効な活用を考え、学力向上に結びつく学習方法を身につける。	評価指標の達成度 ①城東中学校学力向上実行プランを軸に、各教科で指導と評価の在り方や授業改善に向けての研究・協議を行い、生徒の学力や学習意欲の向上に努めた。 ②「学力を伸ばしたい人のための生活改善１０か条」を改訂し、年度初めに「各教科の学び方」とともに生徒及び保護者に配付したり、夏休み等の個人面談時にそれらを活用したりして家庭との連携を図った。また、日々の授業において、細やかな振り返りや学習方法についての指導を継続的に行い、学習意欲や意識の向上・改善に努めた。学習規律についても全学年で徹底できるよう取り組んだ。 ③タブレット端末の活用への関心度は高く、それぞれの教師がアプリの活用方法を研修している。学習内容の特性等に合わせて有効な活用ができるよう、今後も研修や研究を続けていきたい。			
道徳教育 自己を見つめ、心豊かに生きる子どもを育てる。	生徒に充実感をもたらすような生き生きとした学習を進めるため、教科書を中心に適切な資料を選定し、効果的に活用する。	評価指標 授業の内容について深く考えることが出来たと感じる生徒が８５％以上である。 活動計画 ①授業改善のための校内研修を充実させる。 ②教科書に沿った年間計画を作成し、生徒の発達段階に即したねらいを達成させる。	評価指標の達成度 授業の内容について、自分のことのように深く感じる生徒が、1年生では８７％、2年生では８１％、3年生では９１％であった。目標の85％を概ね達成することができた。 活動計画の実施状況 ①各学年で道徳の研究授業を行った。先生方が道徳の授業を大切にし、各学年・学級で、生徒たちの実態に合った教材を使って、生徒と共に道徳的価値や心情について深く考えることができた。 ②年間計画を作成し、生徒が様々な場面において道徳的価値を実感できるような授業を心がけた。	総合評定 B （所見） 生徒たちは授業で道徳的心情や道徳的価値について深く考えることができたと実感している。今後も、授業がさらに深い学びの場となるようにしたい。	・アンケート結果からは、世の中のモラルの変化のせいもあるのか、保護者・生徒・保護者それぞれの捉え方の差が大きいと思う。 ・道徳は、心の許容範囲を広げることだと思うので、自分の考え方と違う多様な考え方があることを知り、相手の心に気を配れるように考えられればと思う。	・自分の考え方と違う多様な考え方があることを知り、認め、日常生活の中で周りの人に対して思いやりのある言動や気遣いができる生徒を育てたい。

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
人権教育 人権の大切さを学び、人権尊重の意識や態度を身につけ、日常生活の中で人権尊重を当たり前のこととして行動しようとする人権文化の創造を目指す人間を育てる。	①人権教育を教育の中核に位置付け学校の教育活動全般にわたってあらゆる場、あらゆる機会に民主的な人間関係の確立に努める実践を積極的に行う。 ②地域社会の実態、生徒の実情に立って人権教育を進める。 ③教師と生徒及び生徒相互の人間的な関わりを通して相互理解と信頼関係を深め望ましい集団活動や楽しい仲間つくりをする学校経営に努力する。 ④学校ぐるみの指導体制を確立し、子どもの可能性を伸ばす。わかる授業の創造をめざして、個人に応じたきめ細かな指導の徹底を図り、学級、全校、課外などあらゆる場面で民主的集団づくりをめざす。	評価指標 ①人権作文・「やさしさ　つながる　ほっとＨＯＴメッセージ」の提出する生徒が１００％である。 ②校内研修会や学年研修会への参加が全職員である。 ③各学年毎に授業を行うことにより、人権に対する鋭い感性が磨ける。	評価指標の達成度 ①人権作文・「やさしさつながるHOTもっとメッセージ」の提出率は９０パーセント程度だった。 ②校内研究授業・研修会や徳島県人権教育研究大会に向けて、校内で研修会を実施することができた。 ③各学年ともにしっかりと授業が行え、学校評価アンケートからも昨年度と同等の回答を得ることができた。	総合評定 （評定） B	・自分の気持ちや考えを文にすることが苦手な人はいると思うので、９０％はすごいと思う。リアルでもSNSでも相手の環境や立場を理解し、思いやりをもって行動できることが大切である。 ・多様な違いを実感して、人権を考えていくといい。 ・いじめは犯罪であることを教えてほしい。 ・リアルな事実を突きつけることで、全ての人の命の大切さを分からせる方法もある。 ・子どもの想像力の弱さが気になるので、もっと本を読んでほしい。 ・全校的なニュースの中で、いじめなどの痛ましい事案が起こった場合には、必ずと言っていいほど学校側と生徒側の認識に大きなズレがある。辛い思いをしている生徒のために両者が互いに協力して向き合うことが必要である。	・人権作文・「やさしさつながるHOTもっとメッセージ」の内容を深められるように、人権学習の授業を進めていく。 ・生徒の発達段階や学年の実情に合わせて、いじめやLGBTQなど、さまざまな人権課題に取り組んでいく。 ・人権学習の際には、使用する教材について入念に検討する。また、必要に応じて新聞記事などを活用し、生徒の身近な問題であり、自分事として考えられるように努めたい。
		活動計画 ①入学式後のＰＴＡ結団式の機会に人権教育への取り組み方について説明する。 ②前期・後期人権教育強化啓発月間（６月・１１月）を設ける。 ③校内研修会や学年研修会などの機会を通じて、全教職員で研鑽に努める。 ④各種研究会に参加したとき、研修結果を報告する。 ⑤地域との連携を強化して生徒に対する共通理解を持ち、積極的な行事への参加を通じてよりいっそう信頼関係を深めるように努める。 ⑥各学年、研究授業を行い、研究を深める。 ⑦外部講師を招いての講演会を行い、研鑽に努める。	活動計画の実施状況 ①現在、全国的に問題になっているSNSによる誹謗中傷の問題を中心に話し、保護者へSNSの使い方の注意喚起の理解を求めることができた。 ②６月は各クラスで人権学習を行い、それを受けて人権作文を書かせることができた。また、各学年の作文発表会でも、発表を聞いて考えを深めさせることができた。１１月には、各学年で研究授業に取り組むことができた。 ③各学年で研究授業を行い、その後の研修会では熱心な討議ができた。 ④研修結果を報告することができなかった。 ⑤オープンスクールにおいて各クラスの人権学習を保護者に参観してもらう予定だったが、実施できなかった。 ⑥各学年の発達段階に応じて、授業のねらいを明確にし、指導計画を練るなど、研究授業に向けて先生方が互いに協力し、人権学習に取り組むことができた。 ⑦３年生では、外部講師を招き、「生命の安全教育」についての、講演会を実施し、学びを深めることができた。	（所見） 本年度は、徳島県人権教育研究大会の発表もあり、人権動画の制作を有志だけでなく人権いじめ防止委員会のメンバーにも協力を得て、学校として有意義な取組にすることができた。来年度以降も人権学習や取組を継続していきたい。		
生徒指導 生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立をめざす。	①生徒の生活実態を把握する。 ②あいさつの習慣を定着させる。 （特に登校時）	評価指標 ①調査の結果から、生徒の実態を把握し、様々な問題の解決を図る。 ②家族や地域の方々へもあいさつができる。	評価指標の達成度 ①「あいさつができている」という生徒の意見は９０パーセント以上だが、保護者の意見は「できていない」が２０パーセントだった。 ②仲間や先生に対しあいさつはできていると思われるが、保護者や地域の方へのあいさつは十分でないと考えられる。	総合評定 （評定） B	・子どもたちが弱音を吐ける場所が必要である。 ・「失敗しても大丈夫」「間違ったらごめんなさい」のモデルになる大人の存在が、身近なところに必要である。 ・話しやすい先生は存在するはずなのに、先生方が常に忙しそうなので、一層の働き方改革が必要である。 ・自転車通学している生徒が挨拶をするのは難しいので、会釈をするといいと思う。	・生徒会を中心にあいさつ運動を発展的に展開させるとともに、校則改定プロジェクトを通して、規範意識のさらなる高まりを目指す。
		活動計画 ①学期に１回程度、生活アンケート調査を実施する。 ②教師や生徒会活動によるあいさつ運動を実施する。	活動計画の実施状況 ①各学期末にアンケートを実施し、問題点や気になることは、生徒と担任が面談し解決へ導くことができた。 ②冬の寒い時期になると、挨拶運動に参加する人数が減り、登校生徒のあいさつに元気がなくなる。少しでも人数が集まり、朝から元気に活動できるようにしたい。	（所見） あいさつを返してくれる生徒は増えてきているが、今後は、あいさつ運動に参加する生徒の人数を増やして、発展的に継続していきたい。		

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
特別支援教育 特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、よりきめ細かな対応に努める。	特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、全教職員が共通理解を図って対応する。	評価指標 ①「本校の支援を必要とする生徒について、教職員が理解に努めている」が９０％になる。 ②特別な支援を必要とする生徒の８０％以上に対応できる。	評価指標の達成度 ①「特別な支援を必要とする生徒が必要とする支援内容について、 理解を深めている」が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて９４％であった。 ②「特別な支援を必要とする生徒に、 必要な支援が８０％以上できている」が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて７３％であった。	総合評定 （評定） B （所見） 誰にどのような支援が必要であるかをそれぞれの教員が理解し、学年や学校全体で共通理解を図りながら取り組んだ。	・教室に入りづらい生徒が、教室以外に行けるところがあることは、とてもいいことである。 ・特別な支援を必要とする生徒だけでなく、教室に入りづらい生徒への対応に対して、保護者アンケートで評価されていることは、とても素晴らしいと思う。	・個々の教育ニーズに応じた支援を目指して、可能な範囲で必要な教材教具など物や人の配置などの支援体制を整えていく。 ・多様な状況、多様なニーズに対応するため、巡回相談員等に指導・助言をいただき、外部の専門機関と引き続き連携をとりながら、教員のスキルアップに努める。
		活動計画 ①対象生徒の実態について共通理解を図り、校内委員会で個々の対応について考える。 ②生徒、保護者の理解を得て、教職員が連携を図り、適切な対応をとる。	活動計画の実施状況 ①学年会等で必要な生徒と具体的な支援方法をまとめ、 共通理解を図った。 ②生徒の特性をより深く理解し具体的な支援につなげるため、必要に応じて専門機関の指導・助言をいただきながら取り組んだ。			
安全教育 登下校時の安全意識の向上をめざす。	自転車通学生のヘルメットの着用を徹底する。	評価指標 自転車通学生のヘルメット着用率が、９５％以上になる。	評価指標の達成度 アンケート結果より、86%程度の生徒が着用できていたが、目標を達成できなかった。	総合評定 （評定） B （所見） ヘルメット着用率100%を目指し、委員会などを通して、生徒の安全に対する意識を向上させていく必要がある。	・防災チームができたことはよかった。募金活動・市民総合防災訓練への参加など、多くの生徒の主体的な活動ができる場となってほしい。 ・小学生でもヘルメット着用が増えてきたが、高校生や大人が着用していない現状の中、８６％は上出来だと思う。	・防災チームでの活動はできているが、学校全体での活動ができていないところが課題である。 ・委員会活動等を通して、生徒自らがヘルメットの着用を啓発できるような機会を設ける。
		活動計画 指導計画に基づき、学校周辺の交通指導を徹底する。	活動計画の実施状況 立哨当番時は、指導重点箇所3カ所で指導の徹底を呼びかけた。一斉下校時は、多くの職員に指導してもらえるように呼びかけ、生徒の安全意識の向上に取り組んだ。			
環境教育 ゴミの減量化・再資源化の意識の高揚と節電・節水に努める。	①ゴミの減量を徹底する。 ②環境美化を徹底する。 ③教室その他の場所における分別や節電・節水を徹底する。	評価指標 ①リサイクルボックスを活用し、教室からでるゴミを減らそうと努力している生徒８０％以上を目指す。 ②新環境ＩＳＯ運動の項目を実践する。 ③節電・節水に取り組んでいる生徒８０％以上を目指す。	評価指標の達成度 ①アンケート結果より、８４％の生徒がゴミを分別し、減らそうと努力できた。 ②例年通りの活動ができた。 ③アンケートの結果より、節電に関しては７９％程度の生徒が「できた」と回答した。節水に関しては８９％の生徒が「できた」と回答した。	総合評定 （評定） B （所見） アンケート結果より、昨年度よりもすべての項目で３ポイント程度向上した。生徒会を中心に次年度も継続した取り組みを行う。	・節電に関しては、保護者のアンケートからは、猛暑などの影響により節電するのは厳しいとの意見もあった。 ・子どもは大人より意識が高いと思う。	・リサイクルに対する意識を向上させるために、資源の再利用を呼びかける掲示物や生徒会・担任からの声かけ、リサイクルボックス設置場所の確認を定期的に行い、生徒のリサイクルへの意識向上を目指す。 ・ＳＤＧｓの取り組みの充実を図り、生徒会の自主的な参加に結びつける。 ・トイレ、教室、廊下等の節電や水道の節水を行うよう呼びかけ、掲示物などの増設や啓発に努める。
		活動計画 ①リサイクルボックスの活用を徹底する。 ②新環境ＩＳＯ運動を行い、資源を大切にする意識の高揚を図る。 ③学級活動や委員会で取り組み、周囲への啓発をすすめる。	活動計画の実施状況 ①各教室にリサイクルボックスを設置し、余った用紙を入れる生徒の様子がみられた。 ②月１回のクリーンアップ大作戦には、生徒会を中心に、多くの生徒が参加し環境美化の意識高騰につながった。 ③本年度の清掃活動では、生徒会と各委員会の代表が参加した。			

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
キャリア教育 生徒のキャリア発達を支援する観点に立って、望ましい勤労観や職業観を身につけるために必要な知識や技能を育てることをめざす。	進路や職業に対する情報収集を通して、望ましい勤労観・職業観を育て、将来の進路への夢や希望を持たせる。	評価指標 １年；将来の進路への夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する生徒が７０％以上である。 ２・３年；将来の進路への夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する生徒が８０％以上である。 活動計画 ①進路や職業等に関する様々な情報を本やインターネット等を利用してに収集・探索するとともに、情報を選択・活用して、自己の進路や生き方を考える。 ②進路適性検査を実施し、自分の適性や自己の果たすべき役割についての認識を深め、DVDや講師の話を聞くなどして、社会人･職業人の生き方を学び、職業体験学習での実践力を身につける。 ③キャリアパスポートを活用し、中学校3年間での計画的なキャリア教育を実施する。	評価指標の達成度 夢や希望をもちその実現に向けて努力する生徒が、１年74%、２年67%、３年80%という結果になった。1、3年生は目標数値に達したが、2年生は前年度より1%減少し、達成に至らなかった。 活動計画の実施状況 ①2・３年生においては高校調べや高校説明会等を通して、自己の進路や夢について深く考えた。 ②進路適性検査を通して自分を見つめ、講師やゲストティーチャーによる講話を含む職業についての学習を通して、社会の中で生きる上で自己の適性や果たすべき役割について考えた。また、職場体験学習の代わりに進路探求プログラムを用いて、企業理解を深め、働く意義や価値を学んだ。 ③キャリアパスポートを記入していく課程で、自分自身について深く考える機会を持ち、具体的にどのような努力が必要なのかを考えた。	総合評定 （評定） B （所見） １年生では74%と、非常に高い達成率となった。また、2、 3年生に関しては、同じ学年集団が1年・２年生だったときと比べると、学年が上がるのに伴って数値も上昇している。体験学習の再開を目指しつつ、進路選択に向けて、各学年でキャリアの発達を支援する教育課程の実施に取り組んでいきたい。	・子どもたちが、夢・希望・目標を持つことは大事である。また、夢を目指す理由を「なぜ、そうなりたいのか」「なぜ、そこに進みたいのか」など、生徒本人がはっきりと理由を認識することが、より主体的・意欲的に向き合う原動力になると考える。 ・文化祭の掲示物として、立派な調べ学習の成果物があり感動した。 ・高校の先生方が来校し、中学校で行う高校説明会を、２年生の生徒にも聞かせ、進路について早めに意識付けする方がいいと思う。 ・高校説明会では、普通科以外の高校や市外の高校にも参加していただき、より広い選択肢があることを知らせてほしい。	・１年時から進路や職業に対する情報収集を行ったり，２年時から高校について知る機会を設けたりするなど，将来の進路への夢や希望を持たせるための方策を早い段階で進めていく。 ・コロナ禍前まで行っていた職業体験学習に新たな形で取り組み、望ましい勤労観・職業観を育てたり，職業や高校に関する調べ学習を通して，将来の進路への関心を高めたり，見通しをもたせたりする。
食育 食育の充実を図り、バランスのとれた食生活をめざす。	朝食をしっかり食べて登校するよう生徒・保護者に呼びかける。	評価指標 朝食を毎日食べてきている生徒が８０％以上である。 活動計画 ①給食時間、学級活動・集会・家庭科の授業等において、「毎日のバランスのとれた朝食が大切であること」を指導する。 ②ホームページ・給食だより・パンフレット等を通して、保護者への啓発を推進する。	評価指標の達成度 生徒アンケートでは、今年度、毎朝朝食を食べていると答えた生徒は76%となり、目標の80%以上を達成することができなかった。 活動計画の実施状況 ①家庭科の授業で、家庭科教諭と栄養教諭のTTの指導による食育の授業を行った。１年生は朝食について、２年生自身の推定エネルギー量について指導をした。また、普段の家庭科の授業でも、１年生では食生活について学び、朝食の大切さについて生徒に考えさせる授業を行った。 ②食育タイムなどで、朝食摂取の重要性を保護者へ呼びかけた。	総合評定 （評定） B （所見） 朝食の重要性は認識されているが、朝食についての問題は、家庭環境により様々であると感じる。今後は、生徒が食生活について自律できるような食育の推進をしていきたい。	・家庭科の授業で、より良い朝食を考えたり、実際に朝食を作ったりすることで、意識付けをするといい。 ・塾などで夜の活動時間が長くなり、朝の時間が厳しいことも関係してると思う。 ・望ましい朝食と食べたい朝食には、違いがあることを考えて献立を考えることが、保護者にも求められている。	・家庭科の授業で朝食摂取の重要性や望ましい朝食の内容について、継続的な指導をしていきたい。また、ホームページや食育だより等を活用して、保護者への啓発も積極的に行っていきたい。

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった